

# あなたは誘導されている？ ～新聞記事の棒グラフを検証～

J 塾 織茂聡

「これって誇張、誘導じゃない？」、新聞記事に掲載されている棒グラフはタイトルと同様に直ぐ目に入る位置にある。本文を読まなくてもある程度の内容理解ができることが大切。しかし「この棒グラフは大げさだな」と感じる図版が紙面に登場することがある。実際に新聞記事で使用されている棒グラフを例に検証する。

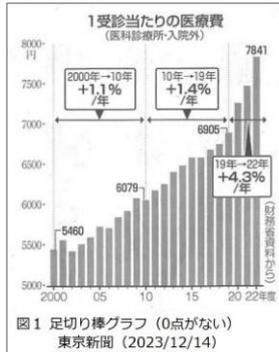


図1 足切り棒グラフ (0点がない) 東京新聞 (2023/12/14)

図2 足切り無し表示 (図1と同データの棒グラフ)

① 「足切り」棒グラフ  
ブロック紙記事「医療の値段」を見てみよう。平均受診費用は1受診当たり2008年からほぼ毎年上昇している。23年間での上昇率は約4割、24倍程度増加している。しかし図1の棒グラフでは「一見(ひと目で)5倍以上に増加」したように見えてしまう。読者に対して「医療費が実際よりも過大に上昇」という印象を与えてしまう可能性を指摘したい。棒の高さ変化率の強調は記事自体に誘導があるのではないかと、という疑問も持つてしまう。

筆者からの「全国総合紙でもある新聞記事に不適切な図が載った場合、指導など何か行動するの？」との問いに対しては「それはしない。ただし学習指導要領、算数・数学の統計の単元において【不適切事例】として示すことは必要かもしれない」という意見であった。

③ 縦軸の縮尺途中変更の棒グラフ  
全国紙記事「保育事故件数の推移」を取り上げる。棒グラフでは縦軸の人数の単位がその途中で百倍近く(縮尺で百分の1程度)変化している。同じ縦軸に事故件数と死亡数の両数値が途中で縮尺を変えて表示されている。前出、総務省統計局の担当者からは「これは不適切使用」と即答。

② 縦軸切り(破線入)「足切り」棒グラフ  
専門紙記事「低温物流市場規模」について検証。図3と図4は同じ数値データの棒グラフである。図3の棒グラフでは、縦軸0点のすぐ上に破線(赤矢印部)を入れており棒グラフの高さがあらわす比率が年度変化の数値比率にはなっていない。出展元のグラフを読みやすく変更することは報道機関として正しい姿勢といえるが「足切り」はミスリードを誘発する可能性が高い。読者としては数値の年度推移にも目を向けてみる必要があるだろう。

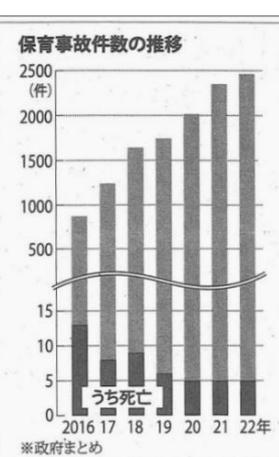


図5 縦軸縮尺が変化した棒グラフ (毎日新聞、2023/8/2)

「全国紙記事『保育事故件数の推移』を取り上げる。棒グラフでは縦軸の人数の単位がその途中で百倍近く(縮尺で百分の1程度)変化している。同じ縦軸に事故件数と死亡数の両数値が途中で縮尺を変えて表示されている。前出、総務省統計局の担当者からは「これは不適切使用」と即答。」

④ 「足切り」された棒グラフの是非  
足切り棒グラフについて作成した記者に取材した。「決して誇張や誘導の意図はない。紙面のスペース関係もあり『見やすくする』『分り易くする』というのが私を含め、大半の記者の意図だと思(新聞記者)との返答。またNHK記者によると「足切り棒グラフ自体をこれまであまり意識していませんでした。強調よりは誘導(ミスリード)につながる危険性がありますね。図版作成の参考意見として共有します」との意見であった。他方、将来科学生ジャーナリストになることを希望する大学院生からは

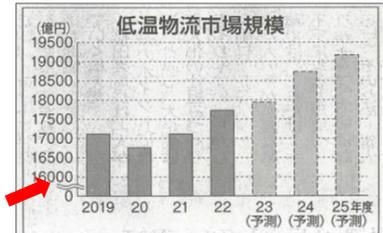


図3 縦軸切抜き(破線入)棒グラフ 日刊工業新聞 (2023/12/22)

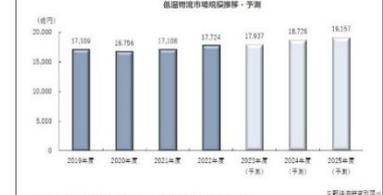


図4 縦軸切り無し(破線無し)表示 矢崎総合研究所のプレスリリース図 (2023/12/18)

「そもそも0を起点としている棒グラフを載せるのは意味がない。折れ線グラフにするべきだ」とのコメントに勇気づけられた。

取材で明らかになったことがある。記者自身が図を作成する機会は少ないようだ。図版作成は整理部や紙面レイアウトを担当する部署が行うことが判ったが、取材をするまでには至らなかった。直接、足切り棒グラフ作成者の見解は得られていない。ただし記者は記事全体にわたる責任があることは明らかだ。他方、読者は図版からの印象だけではなく客観的な数値を確かめる必要があるだろう。